

## 第2章 食料の安定供給の確保に向けた取組



## 夏季冷涼な気候を活かした青森県下北地域の「夏秋いちご」の取組

しもきたかしゅう しゅつかくみあい あおもりけん し ひがしどおりむら  
 下北夏秋いちご出荷組合〔青森県むつ市、東通村〕

### 【工夫ポイント】

- いちごはケーキなどの業務用を始め、季節や用途を問わず人気があるが、6月から11月の夏秋期は国内生産が難しく、例年、ほとんどがアメリカなどからの輸入。
- 鮮度や安全・安心面からも、近年輸入から国産に切り替えて使用する要望が高まる。
- 青森県下北地方は、夏場に冷たい風が吹くやませ地帯であり、農業にとっては厳しい環境となっているが、この夏季冷涼な気候条件をうまく活用し、夏秋いちご栽培に着目。



いちご苗（すずあかね）



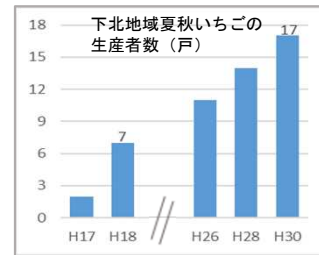
選果作業の様子



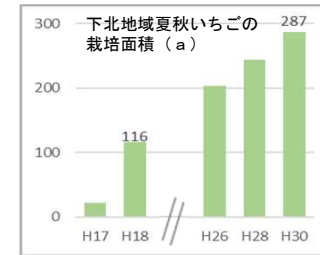
栽培研修会開催の様子

### 【取組と成果】

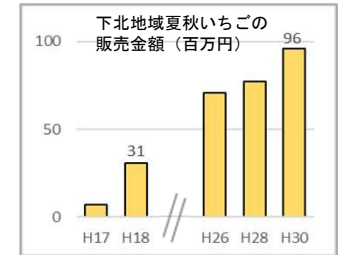
- 本出荷組合の農業者同士の交流も盛んに行われ、技術的な意見交換を行い、いちご栽培技術の底上げを図る。
- 新規就農者への研修を受入れ（研修生は農業次世代人材投資事業準備型を活用）、ここから独立した就農者（特に非農家からの新規参入）が多数。
- 経営規模の維持、拡大にあたり、換気装置やかん水装置を自動化し、栽培管理の省力化を図る。
- 本出荷組合を含めた下北地域の夏秋いちごは、ハウス品目で下北地域初の販売金額「1億円台」を目指す。販路も確立しており、今後も規模拡大等を図る予定。



※ 県下北地域県民局調べ



※ 県下北地域県民局調べ



※ 県下北地域県民局調べ

### 【経営の概要】

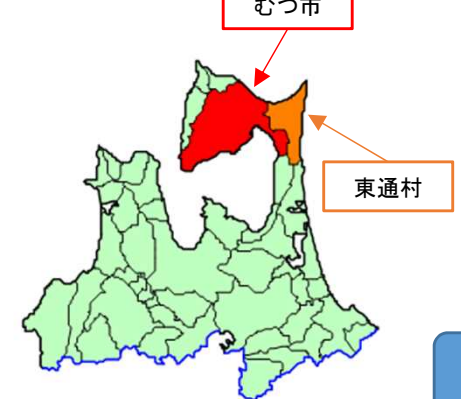
- 出荷組合設立 平成18年（2006年）
- 代表者 村田 睦夫 氏
- 生産者 平成18年：7戸→令和2年：11戸  
栽培面積 平成18年：116a→令和2年：263a  
夏秋いちご（すずあかね、赤い妖精等）
- 販売額 平成18年：31百万円→令和2年：70百万円

### 【取組地域の概要】

- 青森県 むつ市
  - 主要作物（農業産出額）  
鶏（8.7億円）  
乳用牛（生乳）（5.6億円）
- 青森県 東通村
  - 主要作物（農業産出額）  
肉用牛（3.2億円）  
乳用牛（生乳）（1.5億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕

### 青森県



## 機械化一貫体系による大規模な業務用ねぎ栽培

かぶしがいしゃ

あきたけん おがし

### 株式会社おがフロンティアファーム〔秋田県男鹿市〕

#### 【工夫のポイント】

- （農）いりあいファーム滝の頭と相互の技術的交流を通じて、栽培技術の向上に努める。
- 各作業の単純化に取り組み、作業を効率化。
- 一定量を安定的に出荷するため、実需者と連携し事前に年間生産出荷計画を策定。
- 収穫前に月間、週間の規格ごとの必要出荷量を確認し、常に実需者が求める出荷量・品質を維持。
- 降雨等により収穫作業が困難な場合に備え、常時5～10トンをストックし、天候に影響されない出荷システムを構築。



ねぎ栽培ほ場（1ha規模）



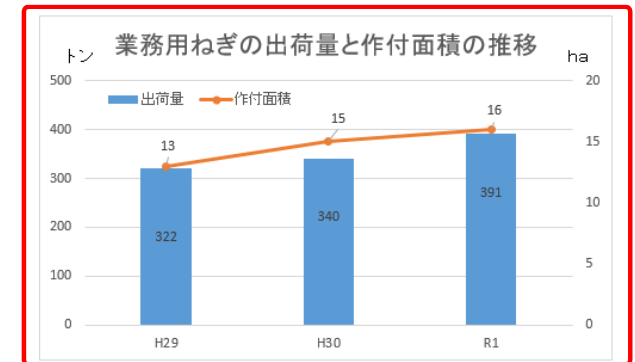
収穫作業（秋田県提供）



調製作業（秋田県提供）

#### 【取組と成果】

- 県単事業及び国の産地パワーアップ事業等を活用して機械等を整備し、機械化一貫体系による大規模ねぎ栽培を実現。
- 専用収穫機での収穫後に、各種機械による調製作業を経て出荷し、契約先の大手全国ラーメンチェーン店等へ販売。
- 契約価格は市場価格と連動せず、一年を通じて固定価格とすることで、安定的な収入を確保。
- 県外にもねぎ栽培ほ場を設置し、12月から4月上旬までは県外のほ場で収穫・出荷を行うことで、年間を通じて従業員の安定雇用を実現。



#### 【経営の概要】

- 設立 平成29年度
- 代表者 代表取締役 宮川 正和 氏
- 雇用人数 2名
- 主な栽培品目及び面積 ねぎ16ha（R1現在）
- 取組のきっかけ  
男鹿市五里合地区の大区画ほ場整備を契機に当地区の担い手組織の一つとして平成29年度から営農開始。

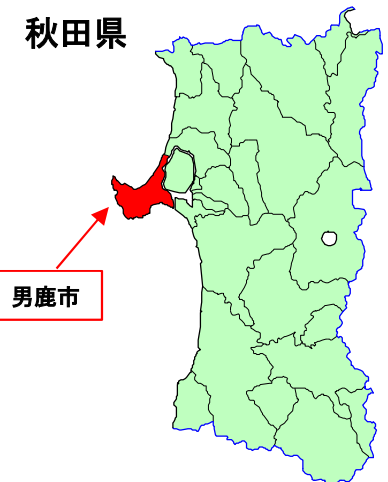
#### 【取組地域の概要】

##### ●秋田県男鹿市

##### ○主要作物（農業産出額）

- 米（29.0億円）
- 野菜（7.0億円）
- 果実（2.6億円）
- 肉用牛（1.2億円）

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕



## 輸出拡大による販路開拓で産地競争力を強化

のうぎょうきょうどうくみあい あおもりけん ごしょがわらし  
 ごしょつがる農業協同組合〔青森県五所川原市、つがる市〕

### 【工夫のポイント】

- 県内有数の稲作地帯として米を生産しているが、国内需要の減少に対応するため、平成25年から輸出を開始。
- 輸出事業者から精米での出荷の要望もあったことから、国の事業（農畜産物輸出拡大施設整備事業）を活用し精米施設を建設。
- 遠方まで輸送し精米していた米を産地で精米することで物流コストが圧縮され、農家の収入が増加。
- 産地で精米した米の品質低下を防止することでブランド力を強化するため、真空包装機を整備。



精米施設外観



精米機



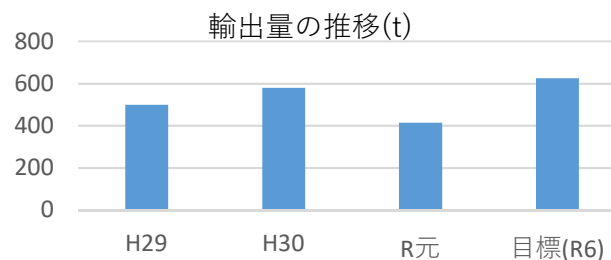
真空包装機

### 【経営の概要】

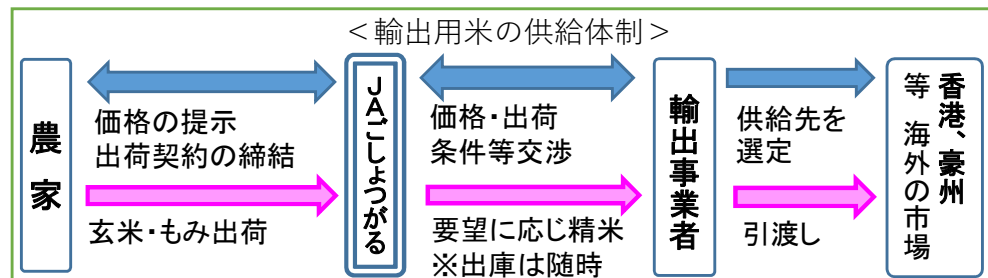
- ごしょつがる農協は、平成21年7月1日にごしょがわらし農協と木造町農協の合併により誕生
- 水稻品種別作付面積（令和元年度）  
 まっしぐら（3,860ha）、つがるロマン（390ha）、青天の霹靂（131ha）、その他（19ha）
- 稲作を中心にりんご、特産品であるメロン等の園芸作物の作付に取り組む
- 人口減少などを背景に米の国内需要は今後も減少することから、安定した供給先を確保するため、平成25年産から輸出にも積極的に取り組む

### 【取組と成果】

- 輸出量は年々増加してきたが、令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響で減少。令和6年度には625tの輸出を目標。
- 品種はまっしぐらで、輸出先国は香港・豪州。
- コメ海外市場拡大戦略プロジェクトに戦略的輸出基地として参加し、戦略的輸出事業者と連携して輸出拡大に取り組む計画。



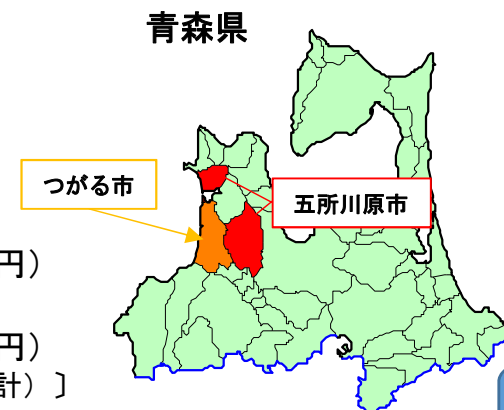
※R元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少



### 【取組地域の概要】

- 青森県五所川原市、つがる市

- 主要作物（農業算出額）  
 五所川原市：米（67.6億円）  
 りんご（30.7億円）  
 つがる市：米（103.1億円）  
 りんご（17.5億円）  
 [平成30年市町村別農業算出額（推計）]



## 福島産ももの美味しさと安全性をアピールし輸出を回復

ふくしまけん ぜんのうふくしま みらい ふくしまけんほくとうぶ  
**福島県、JA全農福島、JAふくしま未来〔福島県北東部〕**

### 【工夫のポイント】

- CAコンテナ※の活用により、航空便から船便に切り替え、品質を確保するとともに輸送コストの大幅な削減と鮮度保持による商品ロスを軽減。
- 輸出先国に直接出向いての情報収集や、現地法人など販売先との直接交渉により、福島産ももの品質、安全性を直接PRして販路を拡大。



カンボジアでの試食販売



福島産桃売り場



マレーシアでの販売の様子

### 【取組の概要】

- 主な輸出品目（青果物）  
もも、なし、ぶどう、りんご、あんぽ柿
- 主な輸出先国・地域  
タイ、マレーシア、シンガポール等
- 取組のきっかけ

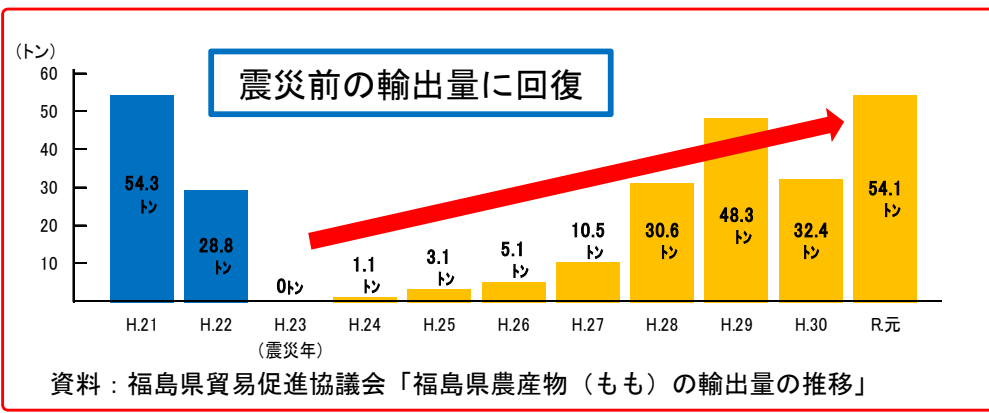
福島産青果物は香港、台湾を中心に輸出を伸ばしていたが、東日本大震災による原発事故に伴う風評被害や、香港、台湾等が福島県からの輸入を停止するなどにより大きな影響を受けた。こうした中で、福島産青果物の輸出量回復に向け、新たな輸出先国の開拓を目指し、タイ、マレーシアなどの東南アジアへの輸出の取組を展開。

※CAコンテナ（Control Atmosphere Container）

リーファーコンテナ（冷凍・冷蔵コンテナ）の一種。温度だけでなく、酸素と二酸化炭素濃度を調整し、青果物の貯蔵期間を伸ばすことができる。

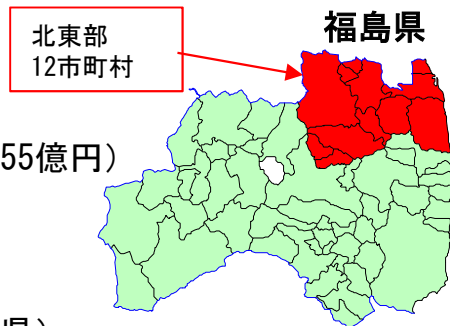
### 【取組と成果】

- 鮮度保持期間を延ばすことにより、一般消費者が購入できる販売価格を実現し、取引数量が拡大。
- 現地の消費者に日本産ももの知名度が低かったため、安全性のアピールと試食・宣伝を実施。試食した人の多くがその場でももを購入しており、試食の効果は大きい。
- 福島産もものブランド価値を向上させ、令和元年度にはタイ、マレーシア、インドネシア、カンボジアで日本産の市場シェア1位を獲得し、震災前の水準に回復。



### 【取組地域の概要】

- 福島県北東部（12市町村）
- 主要作物（農業産出額）  
果実（200.3億円）※福島県計（255億円）  
野菜（149.0億円）  
米（120.5億円）  
〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕
- 平成30年産ももの結果樹面積（福島県）  
1,600ヘクタール（山梨県に続き全国第2位）  
〔平成30年産果樹生産出荷統計〕





農林水産大臣登録第62号

## 山形セルリーのブランド確立による付加価値の向上

やまがたし やまがたけん やまがたし  
JA山形市〔山形県山形市〕

### 【工夫のポイント】

- 首都圏での販路拡大にあたり、他産地のセルリーと差別化を図るため、GI登録産品であることを全面にPRし販売促進活動を展開。
- 山形県在住の有名シェフ、デザイナーとの連携した活動により知名度及びブランド化の普及活動を強化。
- 生産の拡大が安定した販売数量の確保、契約販売店との継続的な取引、販売期間の拡大（1週間から2週間へ）と好循環。
- 評価の高まりにより、生産者のプロ意識と技術の向上、働きがいのある組織の枠組み作りに発展。



ハウス栽培の圃場



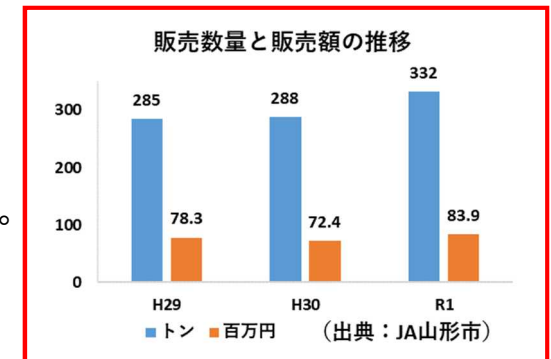
出荷された山形セルリー



セルリー部の生産者

### 【取組と成果】

- ベテラン生産者による研修制度を確立し、生産者の育成、技術の継承に取り組み、安定した品質管理と販売数量の確保を実現。（元年4月から1名研修中。平成26年度から延べ7名が研修受講。）
- GI登録に続き、JGAP取得、地域団体商標登録ブランドを確立し、商品付加価値の向上により、販売額も安定して増加、組織経営の強化につながっている。セルリーの産地としてブランド化を果たし、高い評価を得る。
- 主な販売先は、山形県・宮城県・首都圏で、GI登録した平成30年度から販売数量は、2割弱、販売額も1割程度増加。



### 【経営の概要】

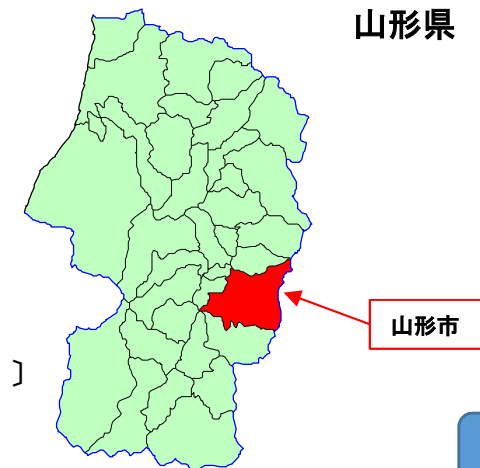
- JA山形市に野菜園芸専門委員会セルリー部を組織。JAと生産者が一体となりブランド化を推進。（GI登録：平成30年4月）
- 生産者数 21名（新規就農者5名）
- 栽培面積  
平成29年度3.6ha、平成30年度4.1ha、令和元年度4.6ha
- 取り組みのきっかけ  
生産者の高齢化が進んできたことから、更なるブランド化による産地の活性化を目指してGI申請。

### 【取組地域の概要】

- 山形県山形市
- 主要作物（農業産出額）
 

果実	(41.1億円)
野菜	(33.8億円)
米	(33.4億円)
花卉	(6.5億円)

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕





農林水産大臣登録第68号

## 技術の伝承と巧みな販売戦略で安定的な販売

ふたご

きょうぎかい

いわてけん きたかみし

## 二子さといも協議会〔岩手県北上市〕

### 【工夫のポイント】

- 協議会が生産者にGI生産者団体会員のメリットを実感させるため、伝統の栽培技術を伝承。
- PRイベントでは、芋の子汁をレシピとともに無償提供し、製品の購入を誘導。また、製品の販売量を抑え気味にして、売り切れ後、手に入れられた喜びを感じさせることを狙う。  
(買えなかった消費者に「次こそ手に入れたい」、「産地へ注文しよう」と感じさせることも狙い)
- 生産者をPRイベントに参加させ、消費者の反応を直接感じてもらうことにより、製品に対する自信と誇り、生産意欲を醸成。



二子さといもの圃場



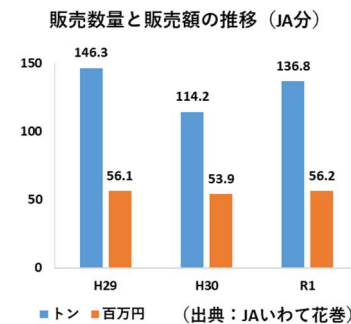
収穫された二子さといも



首都圏でのGIイベント

### 【取組と成果】

- 栽培講習会や代々受け継いできた種芋の貯蔵方法の調査を行い、ベテラン生産者のノウハウを共有。また、食味調査会（感応試験）を行い、品質のバラツキの有無を確認。
- 出荷開始時期に合わせたマスコミへのリリース（出発式等）を行い、二子さといもシーズンの到来をアピール。
- 地元小学生への体験講座や首都圏で開催されたGIイベント等で生産者が産品をPR。
- 上記の取り組みにより、関東、大阪からも宅配注文を受けるなど、販路が広がりつつあり、年間販売額の増加（JA出荷分）で、生産者の意欲向上と新規就農者の協議会入会に繋がっている。



### 【二子さといも協議会の概要】

- 設立 平成29年6月（GI登録：平成30年9月）
- 構成員
  - ・生産者138名（農事組合法人2、社会福祉法人1含む）
  - ・岩手県南広域振興局花巻農林振興センター、岩手県中央農業改良普及センター、JAいわて花巻北上地域営農グループ、北上市（事務局）
- 栽培面積（北上川流域の二子地域を中心に北上市内で栽培）  
平成29年 34ha、平成30年 26ha、令和元年 25ha
- 取り組みのきっかけ  
長年守ってきた産地と技術を、更なるブランド化で次世代に繋げるため、GI申請に向け協議会を設立。

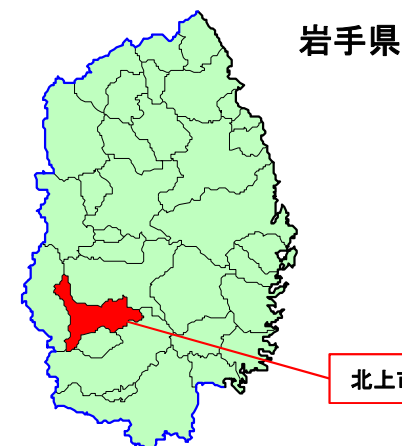
### 【取組地域の概要】

#### ●岩手県北上市

#### ○主要作物（農業産出額）

米	(58.2億円)
豚	(21.8億円)
野菜	(15.9億円)
肉用牛	(6.6億円)

〔平成30年市町村別農業産出額（推計）〕



北上市



## 樹上完熟させたいちじくでこだわりの逸品をつくりあげる

のうえんかぶしきがいしや みやぎけん やまもとちょう  
**やまうち農園株式会社**〔宮城県山元町〕

### 【工夫のポイント】

- 販売方法のこだわり  
 生食用いちじくの注文はネットを通じて受け付け、樹上でギリギリまで完熟させて収穫し、その日のうちに消費者へ直接発送。
- 加工品の特徴  
 完熟いちじくをつかったグラッセは加工後も保たれるその大きさ、やわらかさと果実本来の十分な甘みが楽しめる人気の逸品。
- 積極的な販路開拓  
 商工会を通じた地元企業とのつながりや各種商談会への積極的な参加により県内外へ着実に販路を開拓しており、某航空会社の機内販売商品「ドライフルーツセット」の原料に採用されたり、有名洋菓子店からの依頼で生食用いちじくのタルトを試験販売したりするなど、品質が高評価を得る。



いちじくの木



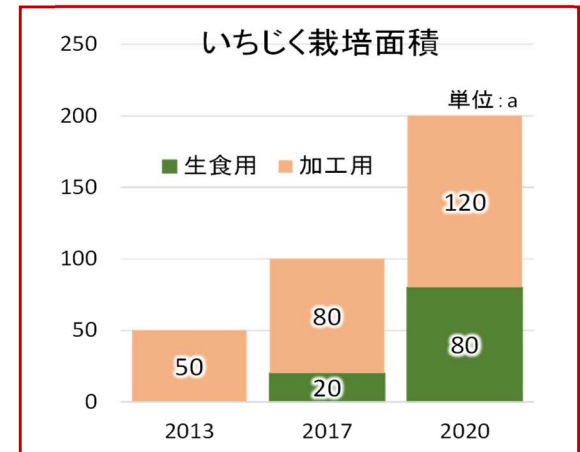
絶品！グラッセ



取締役 裕貴氏(左)、代表 啓二氏(右)

### 【取組と成果】

- 生食用いちじくは県内でなじみが薄かったが、完熟したいちじくにこそ本当のおいしさが詰まっていることを多くの人に伝えたいと地元での対面販売からそのおいしさを徐々に広め、ネットを通じた日本各地への直送販売へと展開。
- 2017年、自宅脇に加工場を併設して本格的に加工品販売を開始。積極的な販路開拓とともにSNSでの情報発信に力を入れたことで人気がいっそう高まり、売り上げを伸ばすきっかけとなった。
- 2020年の6次産業化総合事業計画の認定を機に生食用、加工用ともに生産拡大を図ることとし、新たに規格外品を生かした「いちじくグミ」と砂糖不使用のグラッセの製造に取り組む。



### 【経営の概要】

- 設立 2013年～栽培開始、2020年4月～法人化
- 代表者 代表取締役 山内 啓二 氏
- 雇員人数 3名(臨時雇用)
- 主な栽培品目及び面積 いちじく 2ha  
 (ビオレ・ソリエス(生食用)ブルンスウィック(加工用)等 20品種)
- 取組のきっかけ  
 退職を機に家の周りがある農地を有効活用しようと近隣で栽培されていたいちじくに着目。一般的だった甘露煮向けの加工用品種と差別化できるよう、生食用品種にも挑戦。

### 【取組地域の概要】

- 宮城県亶理郡山元町
- 主要作物(農業産出額)  
 野菜 (15.6億円)  
 ・いちご(13.4億円)  
 米 (8.9億円)  
 果実 (1.2億円)



〔平成30年市町村別農業産出額(推計)〕

こだわりの「眠れる森のたまご」を使った商品開発等による所得向上

ゆうげんがいしゃざおうけいえん

みやぎけん ざおうまち

有限会社蔵王鶏園〔宮城県蔵王町〕

【工夫のポイント】

○卵へのこだわり

鶏を半日以上眠らせストレスを減らして産卵数を2割程度抑え、たんぱく質を豊富に含んだ餌と蔵王の天然水を与えることで、殻が固くプルプル食感の健康卵「眠れる森のたまご」を生産。

○商品へのこだわり

卵を使った料理、マヨネーズやプリン等、従業員のアイデアを取り入れ、原料も厳選した全て手作りの卵加工品を提供。

○デザインへのこだわり

ロゴマーク、レストランや加工品パッケージ等は、デザイナーの家族が統一したコンセプトでデザイン。



farmer's café  
「corrot.」



落ち着いた雰囲気の店内  
(手前は、直売コーナー)



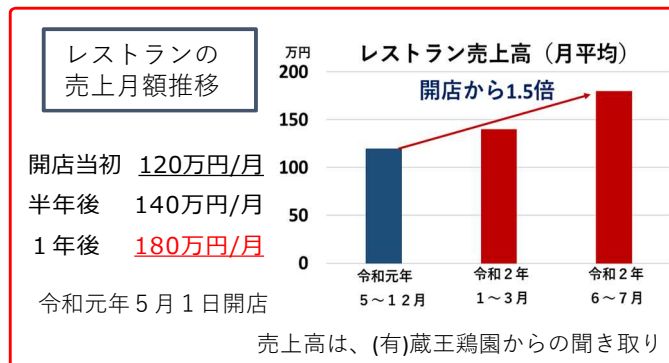
統一されたデザイン  
(人気のプリンと店のロゴマーク)

【取組と成果】

○令和元年5月、宮城県の補助事業を活用してカフェレストラン兼直売所「corrot.」を整備。景色の良い高台で趣のあるレストランではオムライス、プリンやシフォンケーキなどを提供。料理や加工品の美味しさが評判を呼び、来店客によるSNS拡散も後押しし、県内だけではなく近県や関東から若者や家族連れの来店客が増え、売上げが増加。

○蔵王町の支援を受けて各種イベントに積極的に出展して加工品をPR。週に1度、百貨店の地下食品売場で営業を行い、同店のギフト商品に採用。

○地域の主婦を従業員として採用。申請時の4名から6名と2名増加、女性の活躍できる場を提供。



【経営の概要】

- 設立 昭和53年
- 代表者 代表取締役 我妻 和夫 氏
- 雇用人数 8名 (臨時雇用含む)
- 経営内容 養鶏業 採卵鶏 約2万羽
- 取組のきっかけ



蔵王鶏園

「眠れる森のたまご」をイメージした会社のロゴマーク

東日本大震災、平成25年豪雪により鶏舎が被害を受け、採卵鶏6万羽から2万羽へ経営規模を縮小。このようなリスク対応や人材活用のため、自社の卵を使用したレストラン経営及び併設した直売コーナーで卵加工品の製造・販売に取り組む。

【取組地域の概要】

- 宮城県刈田郡蔵王町
- 主要作物 (農業産出額)  
鶏卵 (9.8億円)、肉用牛 (7.8億円)  
果実 (7.8億円)、生乳 (7.4億円)  
野菜 (7.3億円)、米 (7.0億円)



〔平成30年市町村別農業産出額 (推計)〕